

**2024年度
決算説明資料**

神 鋼 商 事
SHINSHO CORPORATION
証券コード：8075

2024年度事業環境

- 日系自動車の減産、国内建材や建設機械の需要減少などマイナス要因があった一方で、環境関連やものづくりへの設備投資が活発化、また半導体や空調分野は回復傾向となりました。原料分野では、価格の下落、投資先や取引先での操業低下の影響を受けました。

2024年度実績

- 厳しい事業環境でしたが、売上高は前年を上回る6,172億円となりました。経常利益は118億円。海外投資先に対して貸倒引当金を計上致しました。当期純利益（親会社株主に帰属）は86億円となりました。

2025年度業績予想

- 通期予想は、経常利益120億円（前年比+2%）、当期純利益92億円（同+7%）とし、株主還元は、「配当性向30%以上、1株100円のいずれか高い方」の方針から106円とします。

	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
売上高	5,914億円	6,172億円	6,370億円
経常利益	128億円	118億円	120億円
（親会社株主に帰属する） 当期純利益	91億円	86億円	92億円
ROE	11.5%	9.7%	10.0%
株主還元	105円	100円	106円

※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、2023年度、2024年度の配当金は、3分割調整後の数値としております。

1. 2024年度 連結業績概要
2. 2025年度 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

1. 2024年度 連結業績概要

2. 2025年度 連結業績予想

3. 中期経営計画の進捗状況

4. 参考資料

2024年度 業績サマリー

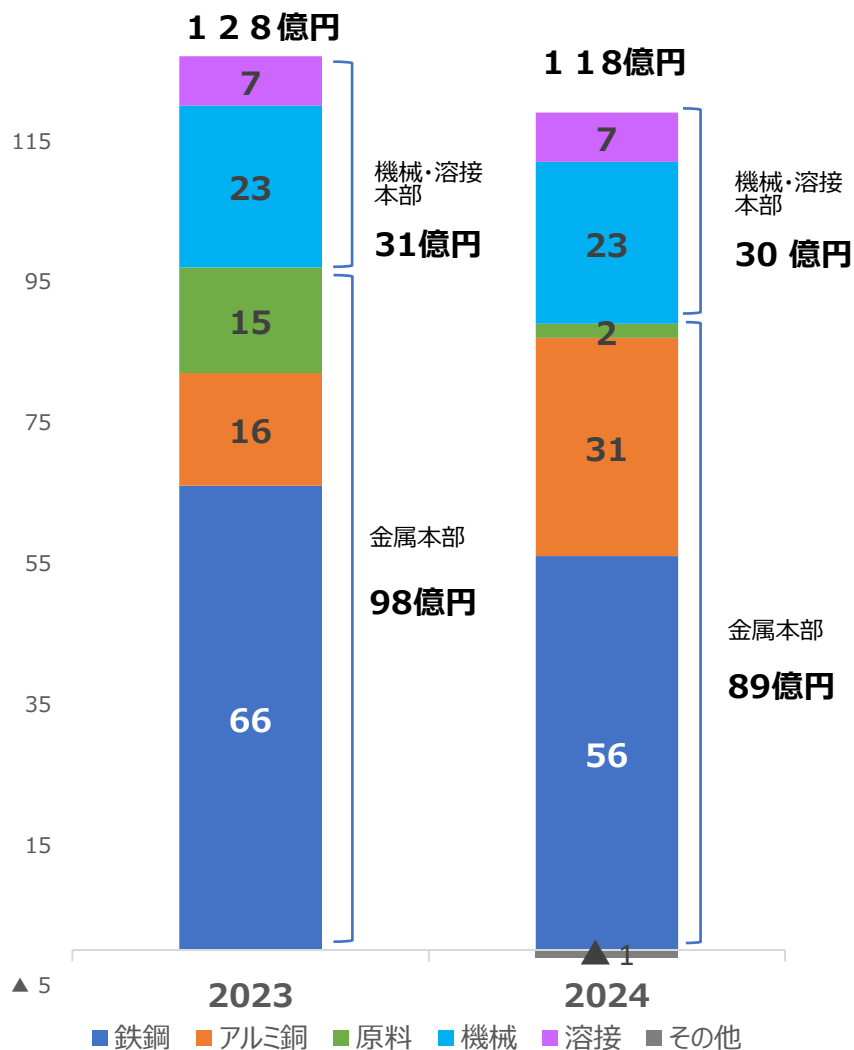
- 売上高は、アルミ・銅ユニットが伸長し、前年同期比257億円の増収、売上総利益は13億円の増益
- 営業利益は、販売管理費の増加により前年度と同水準 **132億円** （前回公表値より+9億円）
- 経常利益は、貸倒引当金計上などにより前年同期比10億円減の**118億円** （同+8億円）
- 政策保有株式の縮減等により当期純利益は前年同期比5億円減の**86億円** （同+5億円）
- 配当金は、配当方針に基づき**1株100円** （株式分割後）

	2023年度 ①	2024年度 ②	増減額 ③=②-①	増減率 ④=③/①	前回公表値 ⑤	前回公表値 増減額 ⑥=②-⑤
売上高	5,914	6,172	+ 257	4.4%	6,230	▲52
売上総利益	391	404	+ 13	4.0%	-	-
販売管理費	▲258	▲272	▲13	-	-	-
営業利益	133	132	▲1	▲0.6%	123	+ 9
経常利益	128	118	▲10	▲8.2%	110	+ 8
（経常利益率 %）	(2.17%)	(1.91%)	(▲0.26%)	-	(1.77%)	(+0.14%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	91	86	▲5	▲6.0%	81	+ 5
※ 1株当たり 当期純利益（円）	345.13円	324.24円	▲20.89円	▲6.0%	306.66円	+ 17.58円
※ 配当金（円）	105円	100円	-	-	100円	-

※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、2024年度の1株当たり当期純利益と配当金は、3分割調整後の数値としております。
2023年度の株式分割前の1株当たり当期純利益は1,035.38円、配当金は315円、2024年度の株式分割前の1株当たり当期純利益は972.71円、配当金は300円となります。

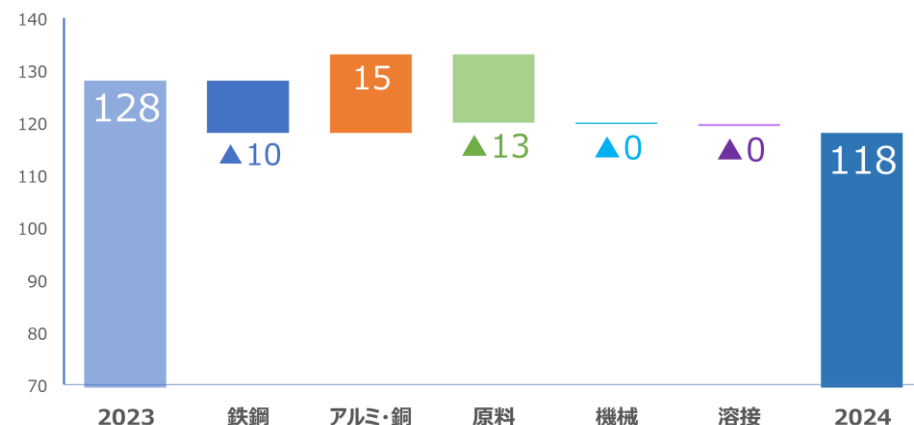
ユニット別経常利益 比較

(単位：億円)



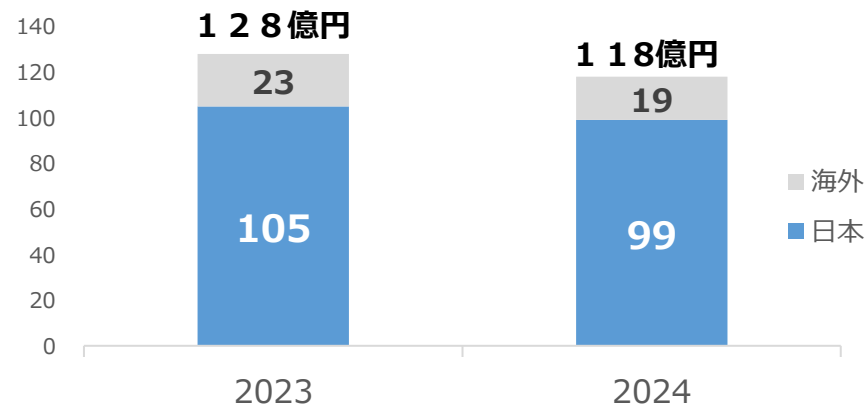
ユニット別経常利益 増減

(単位：億円)



【参考】地域別 経常利益 比較

(単位：億円)



※持分法損益については、所在地による分類となっております。

2024年度 ユニット別 経常利益増減要因 (金属本部)

(単位：億円)

鉄 鋼



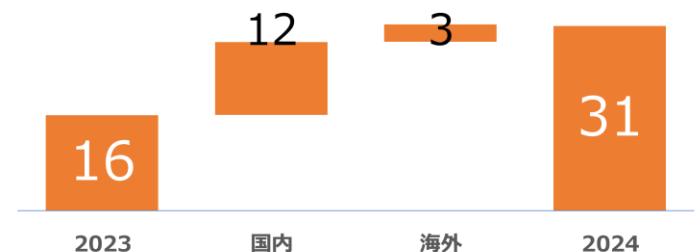
増減要因

【国内】 日系自動車および建材分野での需要が減少した一方で造船向けや半製品の取扱量増加、取扱品目構成の影響で減益
鋼材取扱量は、2,499千ト (前年比2%減)

山陽精機の関係会社化による持分法利益の増加

【海外】 前年度に米国であった一過性利益の剥落もあり減益

アルミ・銅



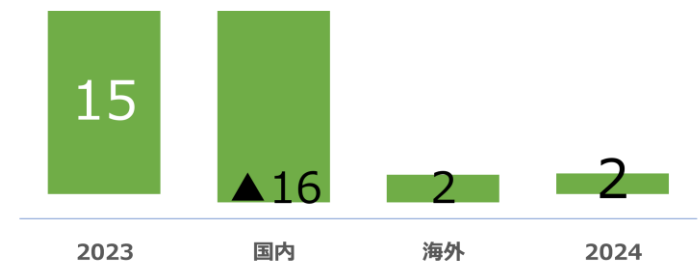
増減要因

【国内】 銅製品は自動車向け端子コネクタや空調部材の取扱増加

アルミ製品は、自動車向けが減少も、液晶や店売りの取扱量が増加

2023年度に子会社化した稲垣商店が連結により増益寄与

原 料



増減要因

【国内】 主原料価格は下落し、取扱量も微減
バイオマス燃料は取引先の操業低下で減少 取扱量175千ト

投資先に対する貸倒引当金計上により減益

【海外】 海外冷鉄源の取扱量増加 取扱量 981千トン (前年度比25%増)

2024年度 ユニット別 経常利益増減理由 (機械・溶接本部)

(単位：億円)

機 械



増減要因

【国内】圧縮機やメンテナンス、神戸製鋼所向けの販売が好調

国内単体、子会社において営業強化のため人員増強（販管費増加）

【海外】中国・韓国で建機部品の減少により減益

溶 接



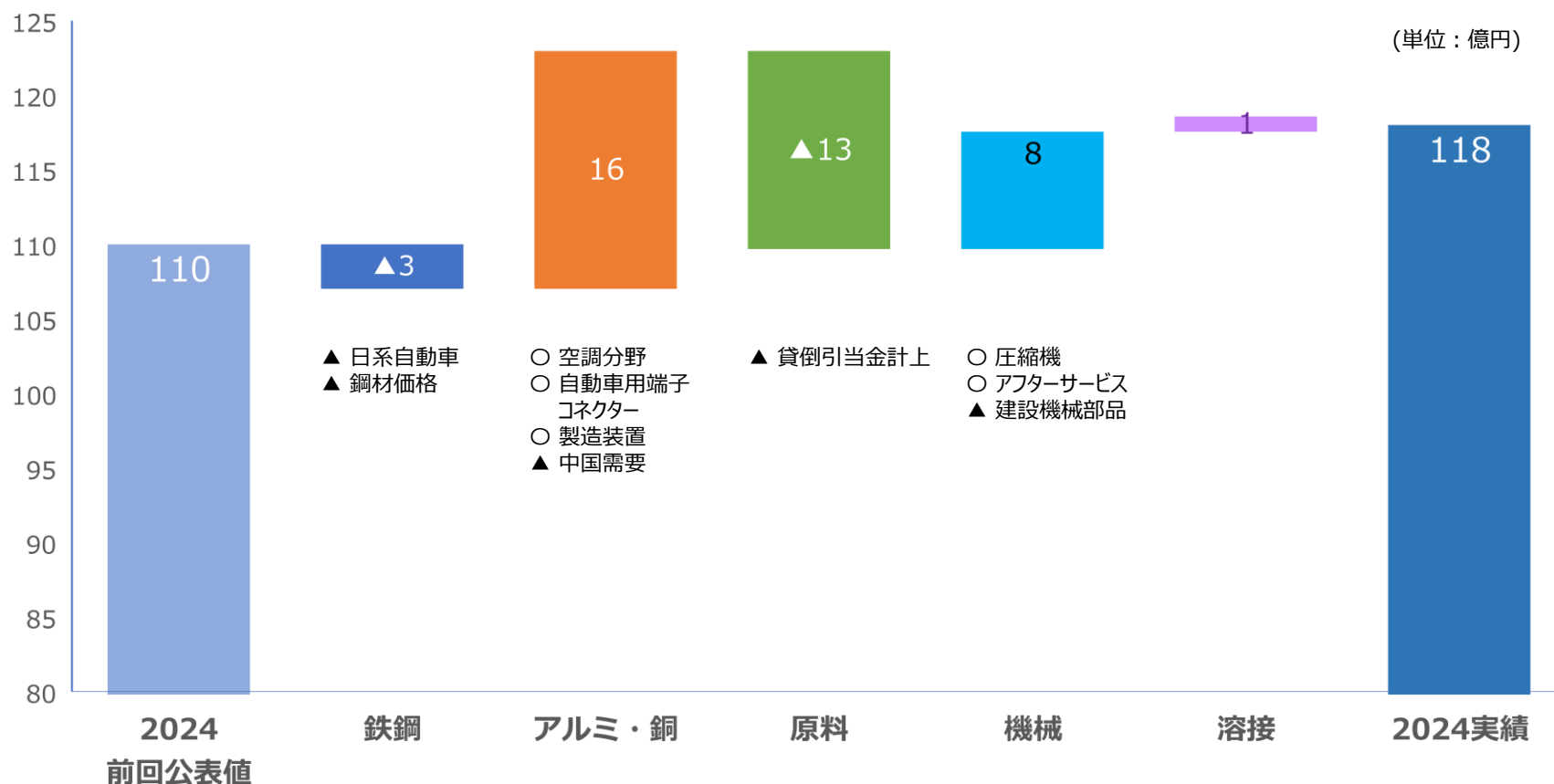
増減要因

【国内】溶接材料は価格上昇も、取扱量は減少

【海外】溶接ロボットの取扱は堅調に推移

【参考】ユニット別経常利益 2024年度前回公表値 vs 2024年度実績

- アルミ・銅ユニットは、自動車用端子コネクターやアルミ加工品の増加等により16億円の増益
- 機械ユニットは、圧縮機やアフターサービスの増加等により8億円の増益
- 原料ユニットは投資先に対しての貸倒引当金計上や取引先の操業低下により13億円の減益



1. 2024年度 連結業績概要

2. 2025年度 連結業績予想

3. 中期経営計画の進捗状況

4. 参考資料

【前提条件】

為替レート : 1USD=140円を想定。



業界	2024年度実績		2025年度想定	
自動車		国内の自動車生産台数は、前年度比減少。 特に、中国とタイの日系自動車生産台数の落ち込みが大きい		日系自動車生産台数は、引き続き低迷 米国関税政策による需要動向は不透明
半導体		AI関連は好調も、自動車・産業機械向けのパワー半導体の需要は低調		AI・データセンター向けは好転予想 PC・自動車向けパワー半導体の需要回復には時間を要する見通し
資源リサイクル		鉄スクラップは国内需要減、円高進行に伴い、市況は軟化基調		鉄スクラップは国内、海外ともに軟調 国内アルミスクラップは、溶解スクラップ比率の上昇により堅調
エネルギー (バイオマス)		バイオマス発電所のトラブル等で、前年からの伸び率は鈍化も増加した		取引先の操業回復により、バイオマス燃料の取扱いは増加

※ 事業環境想定は神鋼商事グループを取り巻く事業環境で、必ずしも一般的な事業環境とは一致しません。

【参考】米国関税政策による業績への影響について

- 北米向け日系自動車生産の減少が直接業績に与える影響は不透明であり、世界経済や幅広い分野での需要減少、サプライチェーンの混乱などでも影響が出る可能性があります。現時点でその範囲や規模を予測することが困難であるため、今回公表する2025年度の業績予想には織り込んでおりません。

業績予想サマリー

- 2025年度の経常利益は120億円。
- 売上高は、アルミ・銅ユニットでの取扱量増加により増収予想も、鋼材価格の下落や日系自動車生産の低迷、販売管理費の増加等により、営業利益は減益を見込む。一方で、経常利益は、営業外収支の改善により2億円増益の120億円、当期純利益は6億円増益の92億円。
- 中間配当は53円、年間配当は106円とします。（配当性向30.4%）

	(単位：億円)	2024年度	2025年度予想	増減額	増減率	主な増減理由
売上高		6,172	6,370	+ 198	3.2%	アルミ・銅ユニットで取扱量増加による増収
営業利益		133	119	▲13	▲10%	鋼材価格下落や日系自動車需要減と販売管理費の増加による減益
経常利益		118	120	+ 2	2.0%	営業外収支の改善による増益
(経常利益率 %)		(1.9%)	(1.9%)	-	-	
親会社に帰属する 当期純利益		86	92	+ 6	7.4%	
※ 1株当たり 当期純利益 (円)		324.24円	348.00円	+23.76円	7.4%	
※ 配当金 (円)		100円	106円	+ 6円	-	

※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、2024年度の1株当たり当期純利益と配当金は、3分割調整後の数値としております。
2024年度の株式分割前の1株当たり当期純利益は972.71円、配当金は300円となります。

2025年度 業績予想 重点取組み

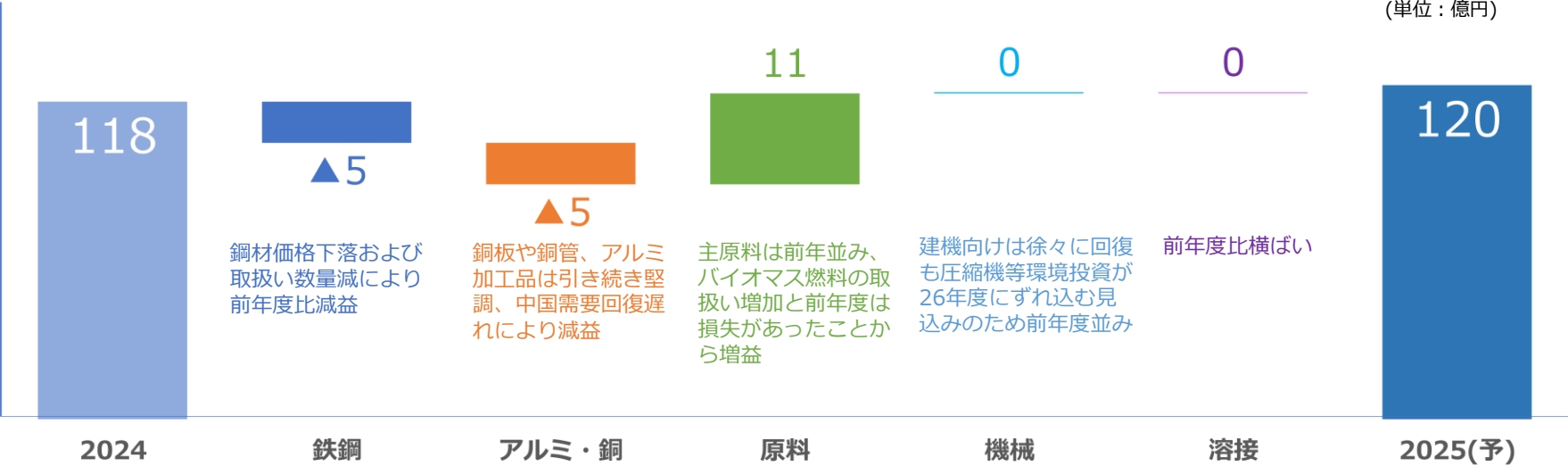
分野	3つの柱			重点取組み
	コベルコグループ ビジネス	オリジナル サプライチェーン	SX	
自動車	● サプライチェーン強化			北米二次加工GBPを主体としたサプライチェーンの強化 インド市場でのサプライチェーン構築
半導体	● 半導体製造装置部品事業			24年度に設立した神商精密器材(株)を軸にした半導体製造装置向けアルミ加工の事業化によって製品ラインナップを拡充
資源リサイクル	● 資源循環ビジネス			自動車パネルの増強、アルミサッシスクラップの格上げ事業化で水平リサイクルを拡大、加えてPCR※への事業領域拡大を検討、国内資源循環ビジネスを強化
エネルギー	● バイオマス燃料 新商品開発	● バイオマス燃料 取扱い拡大	● バイオマス燃料 新商品開発	バイオマス燃料の調達先拡大や機能強化、半炭化ペレット事業への参画によりサプライチェーンを多様化させ、グローバルでバイオマス燃料の取扱いを拡大
ものづくりの現場	● ● 商品 + αの付加価値提供			調達先パートナーを広げて商品群を拡充すると共にメンテナンスやエンジニアリングを強化することで顧客提供価値を高めて収益力を強化
その他	● TRACK Design India(TDI) 取扱い拡大			25年度よりインドでの完全現地化（現地調達、生産、販売）を開始し、インド市場での建機部品取り扱いを拡大
DX	● ● ● ● サプライチェーンDX			国内外にてDX化による生産性向上、データベース化などを推進し、取引先の満足度を高め、競争力強化を図る また基幹システムの高度化に向けた取り組みを開始

● 鉄鋼ユニット、● アルミ銅ユニット、● 原料ユニット、● 機械ユニット、● 溶接ユニット、● 新事業推進室

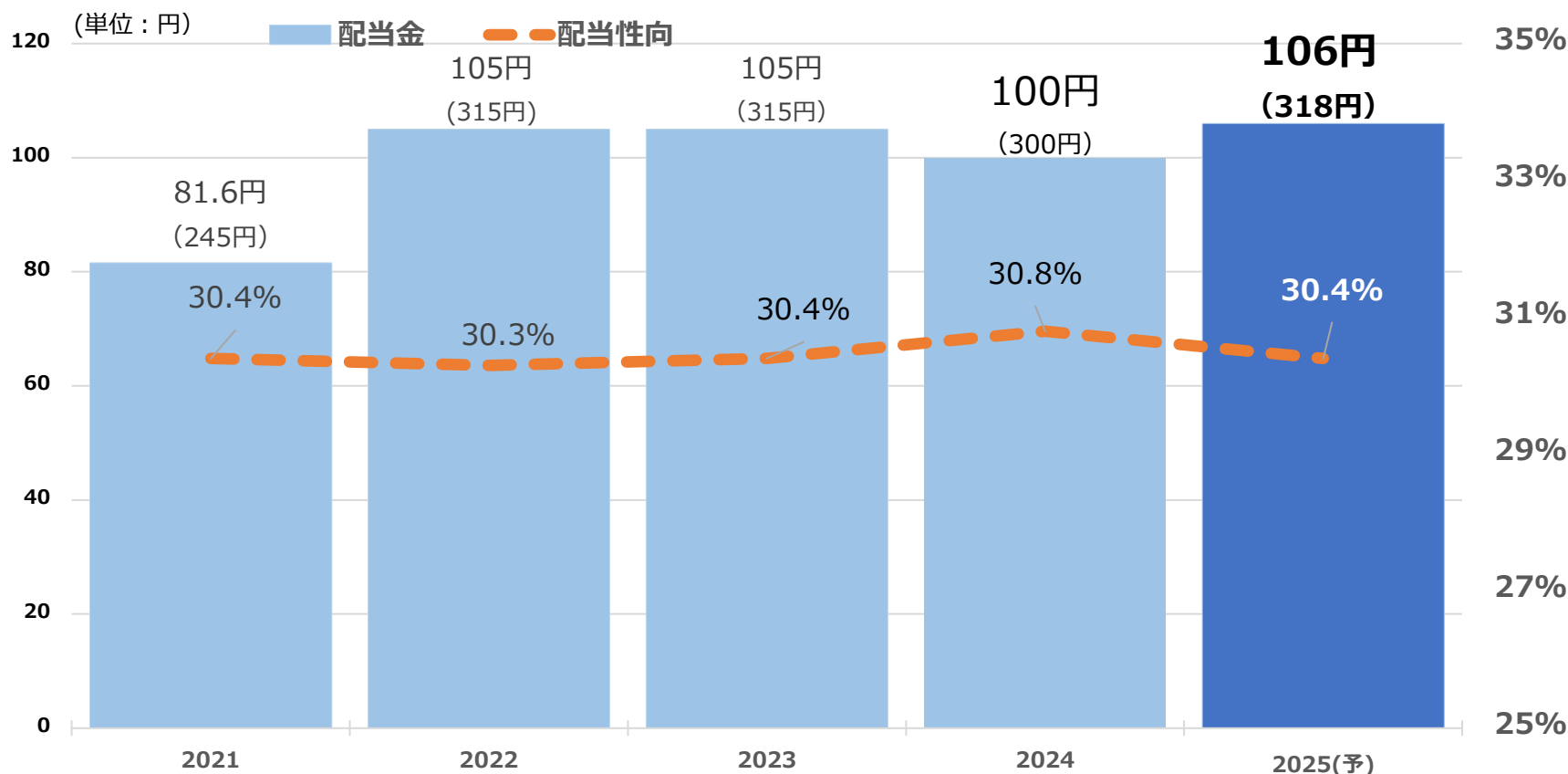
※PCR：Post Consumer Recycleの略称で、消費者が使用した後に廃棄された製品や材料を回収し、再利用するリサイクルのこと

2025年度 業績予想 ユニット別経常利益増減

(単位：億円)		2024年度	2025年度予想	増減額	増減率
金属	鉄鋼	5 6	5 1	▲ 5	▲9.0%
	アルミ・銅	3 1	2 6	▲ 5	▲16.0%
	原料	2	1 3	+ 1 1	648.6%
	小計	8 9	9 0	+ 1	1.5%
機械・溶接	機械	2 3	2 3	0	0.6%
	溶接	7	7	0	▲0.5%
	小計	3 0	3 0	0	0.4%
その他		▲ 1	0	+ 1	—
合計		1 1 8	1 2 0	+ 2	2.0%



- 「**中期経営計画2026**」での配当方針は、「連結配当性向 30%以上、または 1 株あたり配当100 円のいずれか高い方とする」としております。
- 2025年3月31日を基準日（2025年4月1日を効力発生日）として、**1株を3株に分割**致しました。その為、2025年度の配当予想は、連結配当性向30%以上から1株当たり配当**106円**とします。



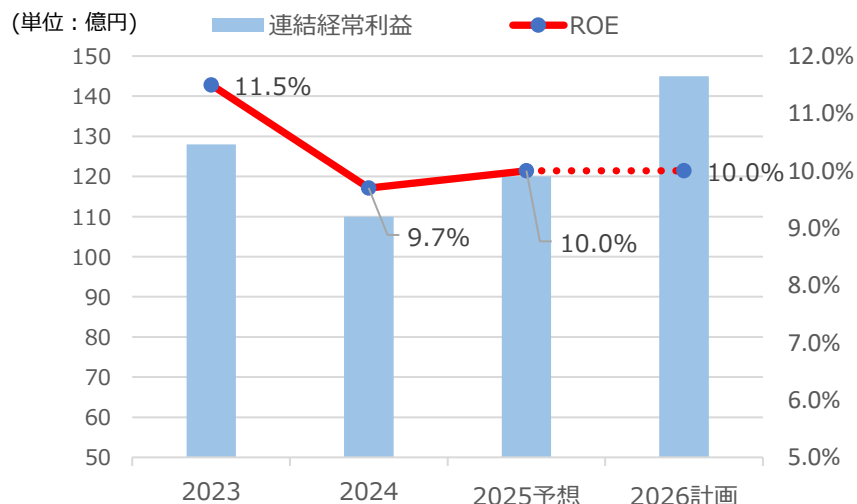
※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、2021年～2024年のグラフについては、3分割調整後のグラフとしております。
2021年～2024年の（ ）内の数値は、株式分割調整前の数値、2025年度の（ ）内は株式分割前を想定した数値としております。

1. 2024年度 連結業績概要
2. 2025年度 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

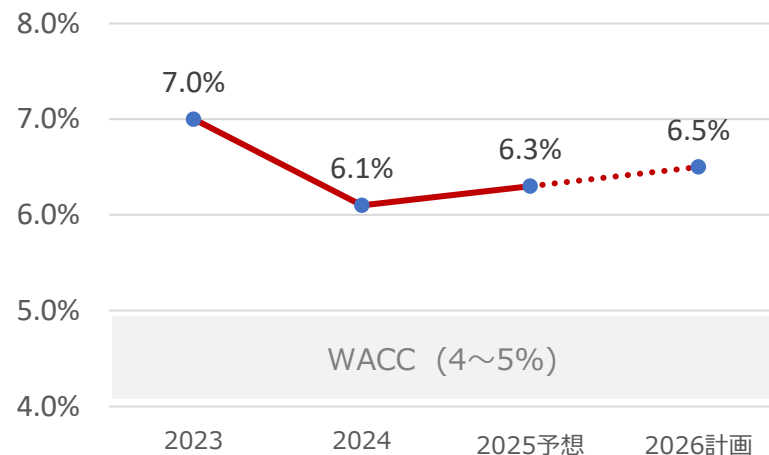
中期経営計画進捗状況 目標数値の進捗状況

	初年度		計画2年度		最終年度	
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2026年度	2026年度
	実績	実績	前期比増減	予想	前期比増減	計画
連結経常利益	128 億円	118億円	▲10億円	120億円	+ 2億円	145億円
ROE	11.5%	9.7%	▲1.8%	10.0%	+0.3%	10.0% 以上
ROIC	7.0%	6.1%	▲0.9%	6.3%	+0.2%	6.5%
自己資本比率	21.7%	23.6%	+ 1.9%	24.6%	+1.0%	21% 以上
外部有利子負債	606億円	613億円	+5億円	(D/Eレシオ0.7倍以下を目安とし、資金調達を最適化)		
D/Eレシオ	0.7 倍	0.7倍	-	0.6倍	▲0.1倍	0.7倍以下目安

連結経常利益とROEの推移



ROICの推移



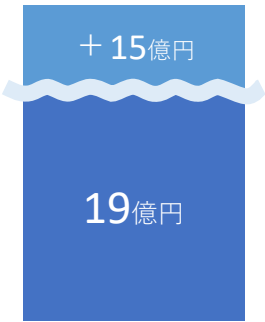
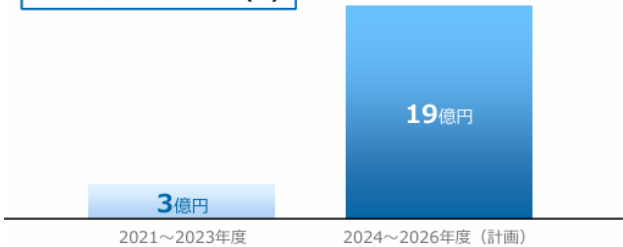
中期経営計画進捗状況 投資実績と今後の投資計画

- 今中計期間中の投融資計画230億円に対し、2024年度実績は19億円
- 2025年度は、77億円の投融資案件を計画し、成長戦略を着実に進める
- 今中計期間中の投資による利益貢献額は15億円程度を見込む

投資分野	3つの柱 (上段：24年度実績、下段：25年・26年度主な計画)			2024年度 投資実績	2025年度 投資計画
	コベルグループ ビジネス	オリジナル サプライチェーン	SX		
自動車	● 山陽精機への追加出資、他			19億円	77億円
	● 設備投資、サプライチェーンDX	● 倉庫自動化システム			
半導体		● 神商精密設立、事業会社設備投資			
		● 神商精密設備投資、他			
資源リサイクル					
		● アルミリサイクル事業投資			
エネルギー					
	● ブラックペレット事業参画	● バイオマス事業投資	● ブラックペレット事業参画		
ものづくりの現場					
		● 事業投資			
その他		● 設備投資、 ● TDI、日本グラニューレータ―M&A			
		● 設備投資、● 溶接商社機能強化	● ファンド追加投資		

● 鉄鋼ユニット、● アルミ銅ユニット、● 原料ユニット、● 機械ユニット、● 溶接ユニット、● 新事業推進室

投資案件 利益貢献額(※)



今中計期間中の投資による利益貢献額
+ 15億円程度 積上げ

21～23年投資による利益貢献額
19億円 (中計発表数値変更なし)

(※)利益貢献額：連結子会社の経常利益、持分法適用会社の持分法投資損益、設備投資による収益増加分、等

- 今年度は、5銘柄 104億円を縮減
- 保有残高の連結純資産比率は、18.3% に低下
- 今後も保有目的や効果を検証し、資本効率の観点で縮減を進めます。

	2024年3月末		2025年3月末時点
保有残高の 連結純資産比率	31.3 %		18.3 %
保有残高	274 億円		170 億円
保有銘柄数	75 銘柄		70 銘柄

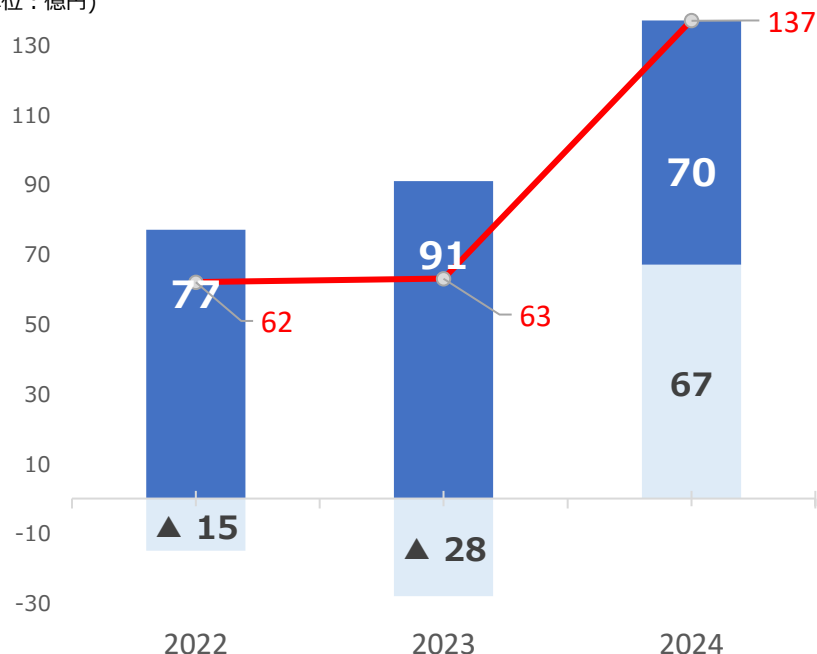


- 取引先ごとのROIC管理を導入し、**低ROICビジネス**における資金負担の圧縮などの**改善活動**を推進
- 安定した**営業CFの創出**と**資本効率化**により、**25年度の新規投融資資金77億円を確保**
- **D/Eレシオ**は、目標数値**0.7倍以下**を堅持 （NET D/Eレシオは、0.44倍）
- **自己資本比率**は、**23.6%**に改善 財務体質の健全化が進む

キャッシュフローの推移

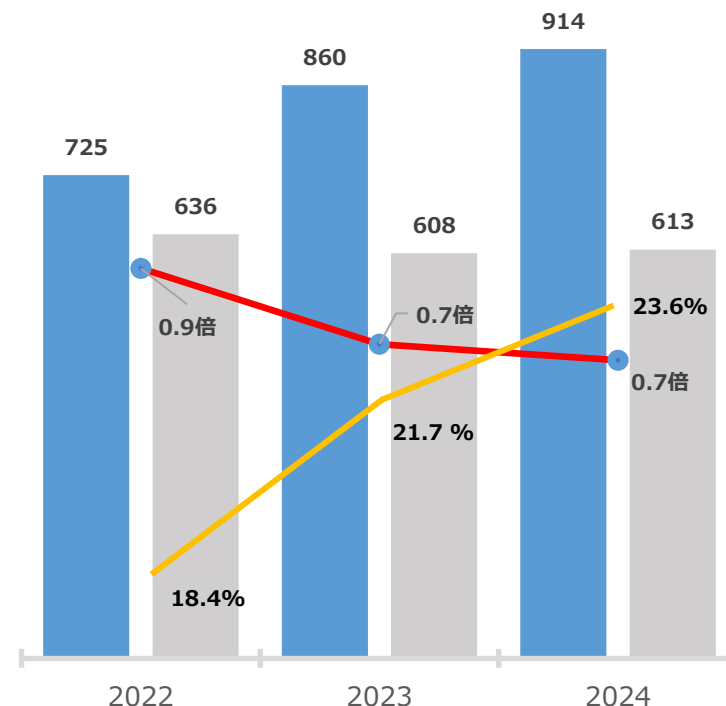
■ 営業キャッシュフロー ■ 投資キャッシュフロー ● フリーキャッシュフロー

(単位：億円)



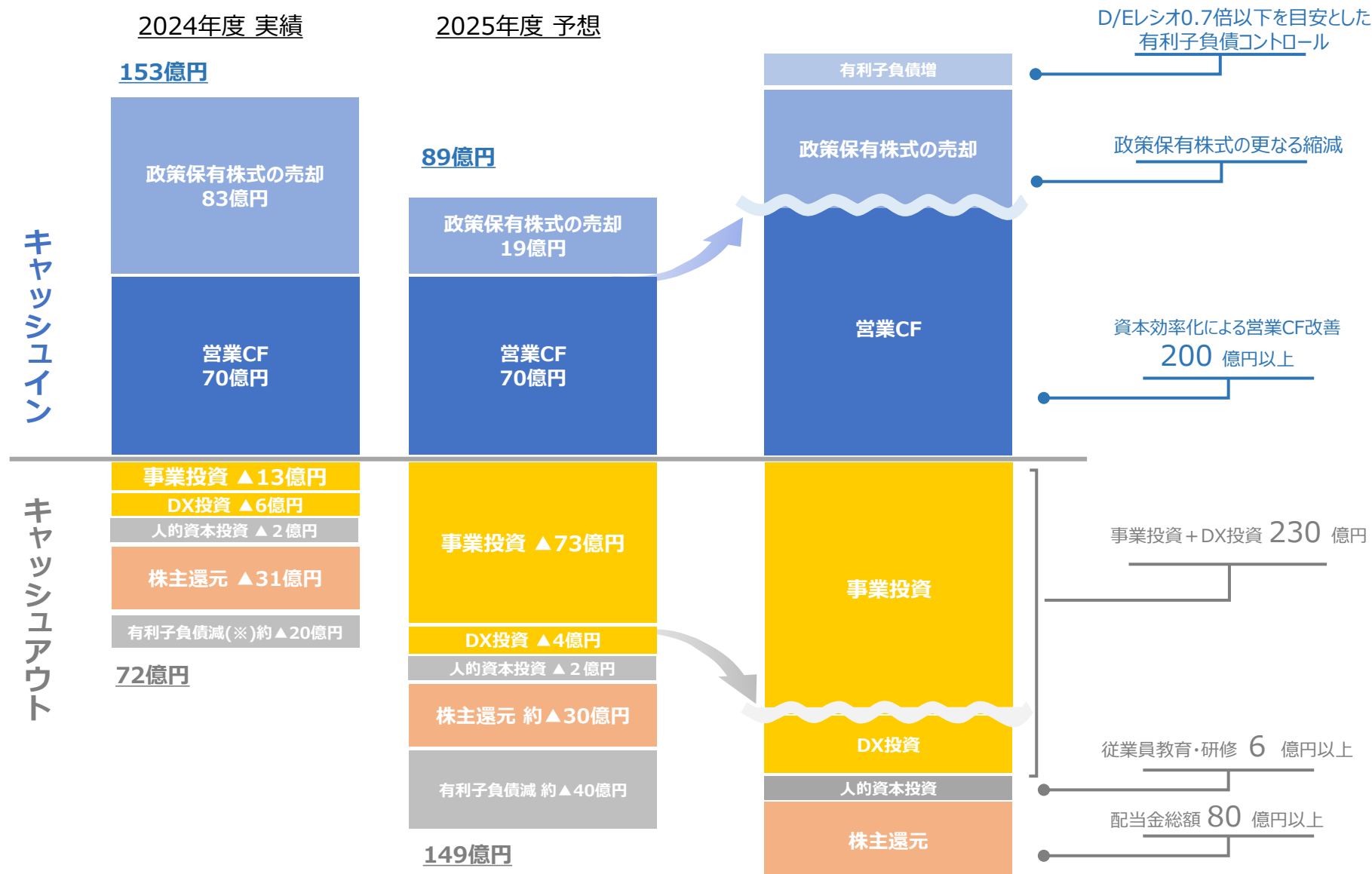
自己資本、有利子負債、D/Eレシオの推移

■ 自己資本 (億円) ■ 有利子負債 (億円)
● D/Eレシオ (倍) ■ 自己資本比率 (%)



キャッシュアロケーション（イメージ図）

2024年～2026年計画累計



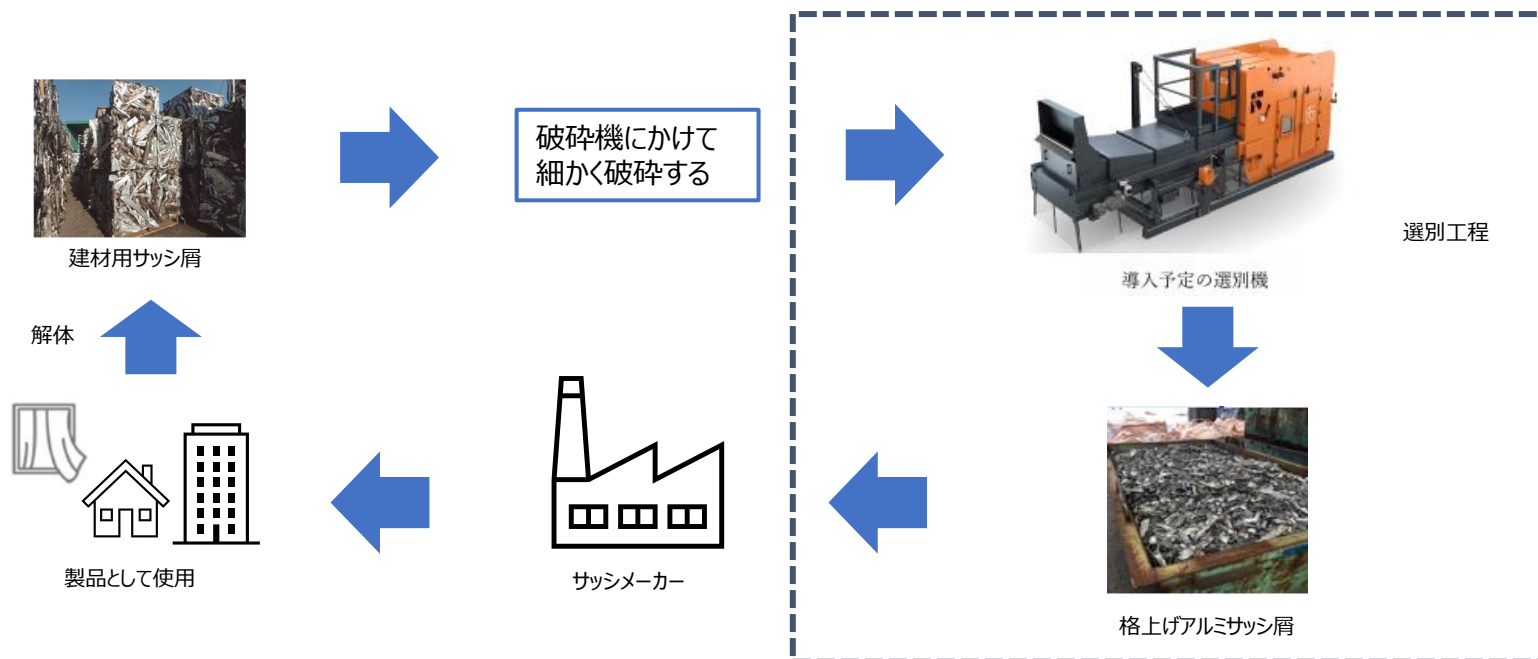
- バイオマス燃料サプライチェーンの多様化を目指し、「木質ブラックバークペレット」事業に参画
- ローカル・エナジーシステム株式会社に出資、西条ペレット工場でBBP製造事業を立ち上げ
- BBPは、熱処理（半炭化）によって石炭代替として高カロリーで燃焼する高付加価値化されたバイオマス燃料
- 石炭火力発電所において、大きな設備投資をすることなく石炭と混焼することが可能で、CO2排出量の削減に貢献
- 今後、新たな地域での事業化も模索



👉ここがポイント！

- 廃棄されていたバーク材（樹皮）を利用することにより、**環境資源の有効活用、国内林業の活性化**
- BBPはカーボンニュートラルな燃料のため、**石炭代替によるCO2排出量の削減に貢献**
- 従来よりPKSや木質ペレット等のバイオマス燃料を取扱う商社としての**ノウハウを活用可能**
- 当社の中期経営計画のSX事業によって、**非化石燃料化の課題解決に貢献**

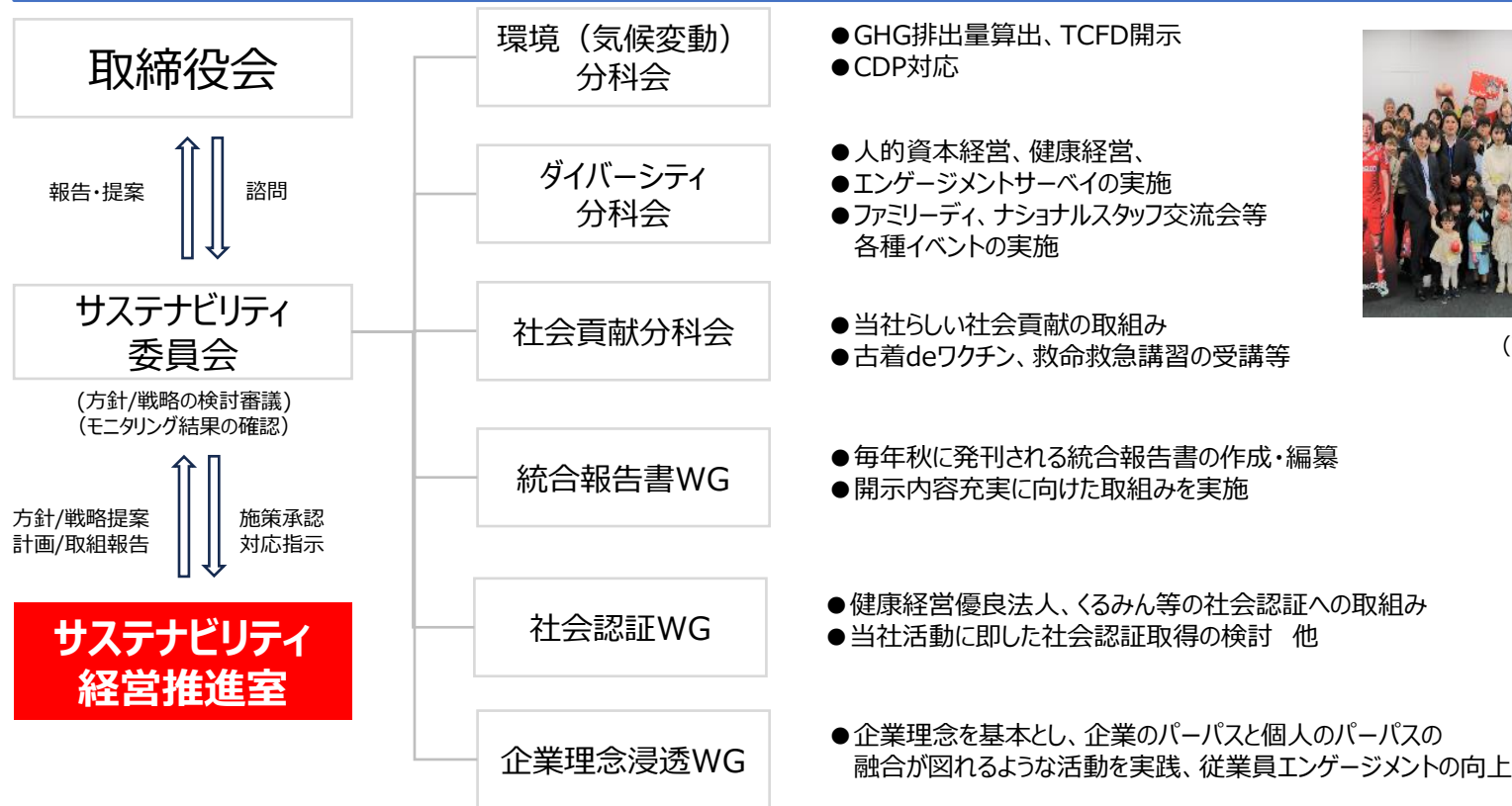
- パートナー企業と建材用アルミサッシスクラップの格上げリサイクル事業投資を決定
- 自動機で高度選別し、「サッシ to サッシ」の水平リサイクル率向上を実現
- リサイクル原料は、国内使用率の上昇によって需要が高まっており、地域内での資源循環を促進



👉ここがポイント！

- 建材用サッシ屑の選別を自動化、高度選別して格上げし、水平リサイクル（サッシ to サッシ）を実現
- 中期経営計画の「オリジナルサプライチェーン」構築によるビジネスモデルの多様化、国内循環の課題に対応
- 北陸の金属リサイクル企業である[クルマ商事\(株\)](#)とパートナーシップを築き、地域内での資源循環

- ESGの取り組みによる持続可能な企業活動に加え、重要課題への取り組みを通じて、魅力的な成長ストーリーと新たな価値創造のロジックを強化して、更なる成長への推進力を高め、質の高い経営への変革を進めていきます。



(ファミリーデイの様子)



👉ここがポイント！

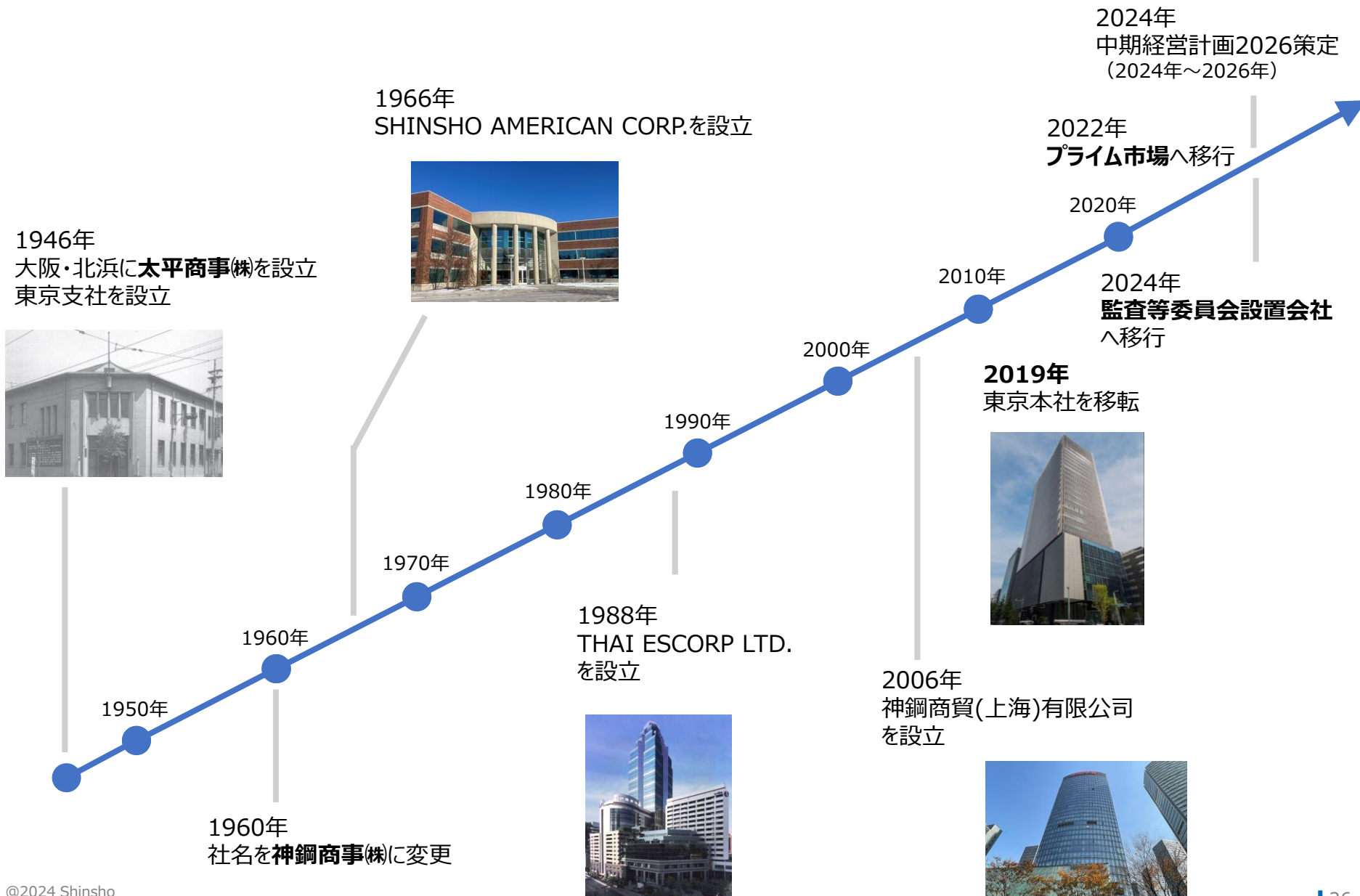
- 当社グループの方針、活動をサステナビリティ経営推進室が企画・統括
- 全社横断のメンバーで構成された、分科会やワーキンググループ（WG）を設置

1. 2024年度 連結業績概要
2. 2025年度 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 参考資料

神鋼商事株式会社

(2025年3月末時点)

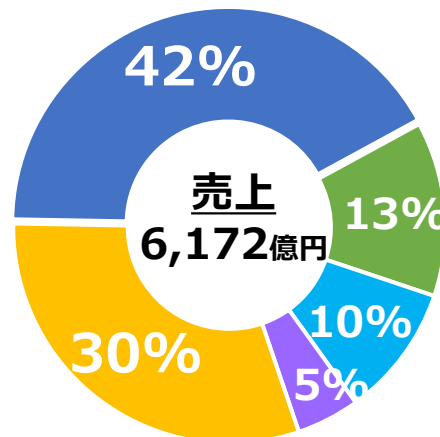
業 態	商 社
証 券 コ ー ド	東京証券取引所 プライム市場(8075)
住 所	【大阪本社】 大阪府大阪市中央区北浜二丁目6番18号(淀屋橋スクエア) 【東京本社】 東京都中央区京橋一丁目7番2号(ミュージアムタワー京橋)
創 業	1946年11月12日
連 結 子 会 社 数	42社
従 業 員 数	連結：1,528名 (内、平均臨時雇用者数 82名) 単体： 511名 (内、平均臨時雇用者数 55名)
単 元 株 式 数	100株
事 業 内 容	鉄鋼、鉄鋼原料、非鉄金属、機械、情報産業、溶材各製品の売買及び輸出入



- 当社は、金属本部（鉄鋼ユニット、アルミ・銅ユニット、原料ユニット）と、機械・溶接本部（機械ユニット・溶接ユニット）で事業を展開

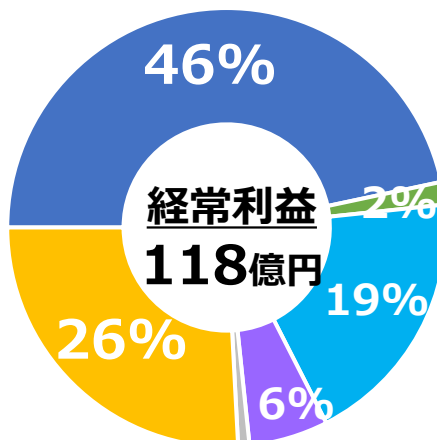
鉄鋼

自動車向けを中心に鉄鋼製品を国内・北米・中国・東南アジアに供給
北米加工拠点の強化等、設備投資・事業投資を展開



アルミ・銅（旧：非鉄金属）

自動車・半導体・空調等へのアルミ・銅素材及び加工品の供給
スクラップ・雑電線等のリサイクルビジネス及び国内外加工拠点の強化・新設



原料（旧：鉄鋼原料）

鉄鉱石等、製鉄所向け原料を安定供給
バイオマス燃料、鉄スクラップ等の資源循環型ビジネスにも注力



機械（旧：機械・情報）

産業機械や建機部品、電子情報関連製品まで幅広い製品を取扱う
メンテナンスや部品などのアフターサービスにも注力



溶接（旧：溶材）

高品質・高シェアの溶接材料に溶接ロボット等を加えたトータルソリューションを提供



【参考】 2024年度 バランスシートの状況

(単位：億円)	2023年度 3月末 (2024/3月)	2024年度 3月末 (2025/3月)	増 減
流 動 資 産	3,376	3,375	▲0
固 定 資 産	588	493	▲95
〔 内訳 有形・無形固定資産	110	107	▲3
投資その他の資産	478	387	▲92
資 産 合 計	3,964	3,869	▲95
流 動 負 債	2,810	2,722	▲88
固 定 負 債	280	217	▲63
負 債 合 計	3,089	2,939	▲150
自 己 資 本	860	914	+55
非 支 配 株 主 持 分	15	15	+0
純 資 産	875	930	+55

外部有利子負債	608	613	+5
自己資本比率	21.7%	23.6%	+1.9%
D/Eレシオ	0.7倍	0.7倍	-倍
1株当たり純資産（※）	3,256.7円	3,461.4円	
期末株価（※）	2,407円	1,914円	
PBR	0.74倍	0.55倍	

※2025年4月1日を効力発生日として1株を3株に分割しており、1株当たり純資産と期末株価については、3分割調整後の数値を記載しております。
2023年度の株式分割調整前の1株当たり純資産は9,770.1円、期末株価は7,220円です。

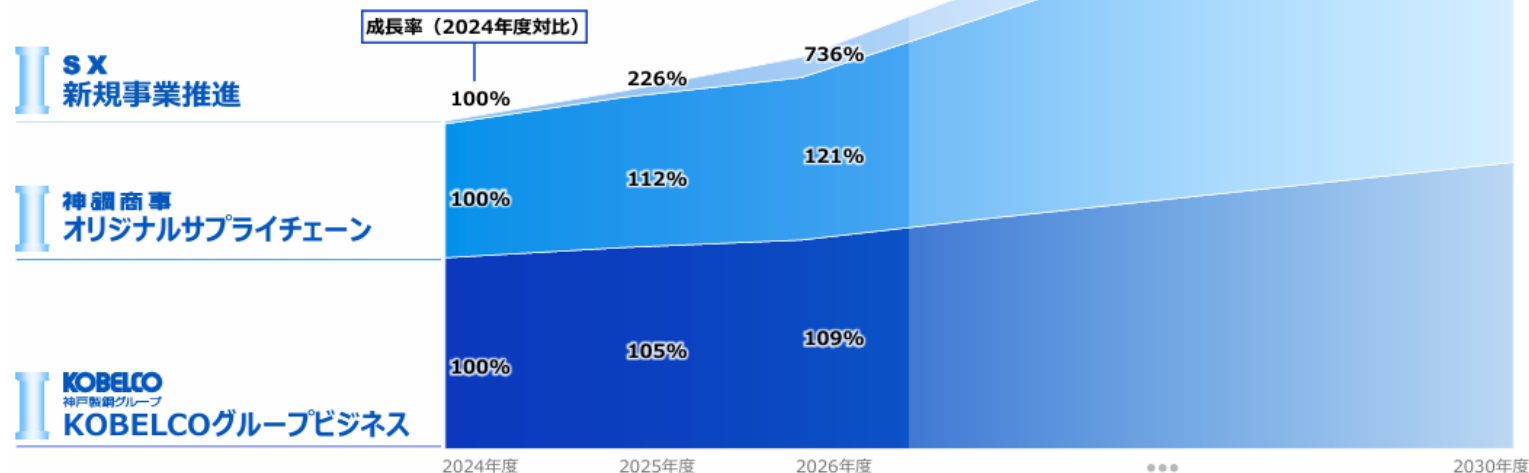
【参考】中期経営計画2026 3つの柱（再掲）

3
つ
の
柱

KOBELCOグループビジネス	KOBELCOグループの多様な商品の販路の維持と拡大に注力し、グループの各事業との連動と調和を図る
神鋼商事オリジナルサプライチェーン	当社の成長エンジンと位置づけ、仕入先・取扱商品とビジネスモデルの多様化を図る
SX 新規事業推進	社会課題の解決と収益力強化につながる未来への投資と事業を推進する

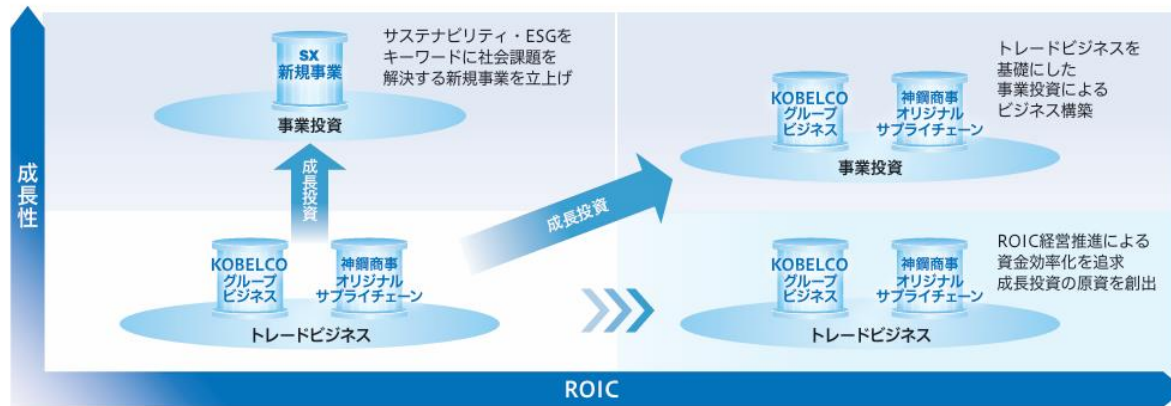
- 現在のKOBELCOグループビジネス、神鋼商事オリジナルサプライチェーンから得られる利益を拡大すると並行して、SX 新規事業推進案件への投資を進め、将来の収益の柱の1つを目指す。

ビジネスの3つの柱（KOBELCOグループビジネス、神鋼商事オリジナルサプライチェーン、SX 新規事業推進）の売上総利益



事業構造変化の方向性

収益力強化のため、外部環境の影響が大きいトレードビジネスから成長性・安定性のある事業投資へ資金を投入し、さらに成長性が高いSX新規事業にも積極的に投資を実施していきます。トレードビジネスはROIC経営推進による資金効率化に取り組み、高収益体質を目指します。



		KOBELCO 神戸製鋼グループ KOBELCOグループビジネス	神鋼商事 神鋼商事オリジナルサプライチェーン	SX 新規事業推進
主な事業分野	自動車	☆特殊鋼線材ビジネスの収益力強化 ●特殊鋼線材の事業領域拡大 ●サプライチェーンDX		
	半導体		☆半導体拡大ニーズの捕捉 ●ベトナム/VINA WASHIN ALUMINUM押出プレス増設 ●半導体製造装置部品事業	
	資源リサイクル	☆金属リサイクルの収益性向上 ●環境リサイクル関連投資		
	エネルギー	●バイオマス燃料新商品開発	☆バイオマス燃料の確保と新商品開発 ●バイオマス燃料(木質ペレット)事業	●バイオマス燃料新商品開発
	ものづくりの現場	☆脱炭素関連機器、省人化ニーズの対応強化 ●エンジニアリング事業		
	その他	●インド/TRACK DESIGN INDIA能力増強	●溶接商社機能強化	●新規案件※ ※新規案件については、事業分野を限定せずに検討中。

☆ 重点施策 ● 鉄鋼ユニット ○ アルミ・鋼ユニット ● 原料ユニット ● 機械ユニット ● 溶接ユニット ● 新事業推進室

企業理念

私たちは誠実をモットーに、新しい価値の創造を通じて、
豊かな社会づくりと、みんなの幸せをめざします。

※本資料に記載されております業績予想並びに将来見通しは、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、現時点で予測可能な情報に基づき当社が判断したものであり、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、様々な要因により記述されている将来予想とは大きく異なる可能性があり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみで投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。
本資料の利用で生じた損害を、当社では責任を負いかねますことご承知おき願います。